



発行

兵庫県知的障害者施設協会

〒669-1353

三田市東山898-1 東山荘内

発行責任者 婦 木 治

TEL (0795) 68-5771

FAX (0795) 68-1052

印刷所 株式会社アカツキ印刷

「現在の社会現象から福祉を考える」

県知的障害者施設協会

会 長

婦 木 治

例年にならない酷暑に加えて国政、県知事選挙などでさらに暑さに拍車がかかっていると思います。マスコミでは小泉首相の記録的な人気に当惑しながらも、好意的な論調、報道が多く見られるのは何故なのでしょう。余りにも課題や問題のある言動で信頼、人気を失墜してしまった前首相のリバウンド効果なのでしょう。か。又はバブル崩壊以後常に閉塞感や先行き不透明感で希望が持てない社会の中で、言動といい潔さといいい何かがやってくれるという期待感と人間性が現在の世相にタイムリーに合致しているからなのでしょう。しかし、これだけの人気の首相をもつてしても株価の低迷、経済の混迷、雇用の低調に回復の兆しが見えてこないのは、「聖域なき基礎構造改革」とか「真の改革には痛みを伴う」など、改革の全貌がより明確になってから経済界や金融界が反応してくるのでしょうか。

さて、最近の社会的な出来事や事件の二つを例にとり福祉を考えて見

たいと思います。

そのひとつは、大阪府池田市の大阪教育大学付属池田小学校での小学生惨殺事件における精神障害者の入院についての医療、司法、福祉の関わりと罪を償うことの責任能力の問題です。現在精神鑑定のための鑑定留置中であり結果が出ていませんので断言出来ませんが、慎重論、強行論が交錯するなかで現行維持では問題が有り過ぎるということは事実であります。精神障害を持つ人達への医療のあり方について今一度、司法や福祉分野等との連携強化が議論されるべきではないでしょうか。今回の事件の発生までの容疑者の生い立ちから成人までの過程をみると、当事者を取り巻くいろいろな支援の環境が整っていれば、防げた事件ではなかったと考えてしまいます。

二つ目は、ハンセン病元患者の人權復権と国家賠償責任を国が認めたことです。

今年の五月にハンセン病国家賠償請求訴訟で原告の訴えを全面的に認

めた熊本地裁判決が確定し、小泉首相が国の責任を認め謝罪をしたことが大きく報道されました。総理着任後間もないときにだけに国民も大きく評価しました。しかし絶対隔離、完全撲滅政策のなかで患者すべてを国立療養所等に収容し終生隔離していくこの政策は特効薬プロミンが開発され諸外国ではその規制の必要性がないとされてからでも約四十年余り一部の権威的圧力のもとに継続されてきた事実があります。療養所を訪問すると島の中にひとつのコミュニティが存在し故郷、家族を失い平均年齢が七十四歳という高齢で少額の賠償金をもらっても元患者の人達の生活はこれからも療養所のなかであるという事実は変わらないということです。「孤独で身体障害をもった老人ばかりなんです」という言葉には、障害者も含めて国策の妨げになるものを排除してきたやり方に、国民すべてが猛省をしなければならぬと思います。

我々障害施設関係者においても、制度改革に視点が向きすぎて、本来十分に検討を加え組み立てていかなければならない重要事項を置き去りにしていかないよう十分に検証していく必要があります。



平成十三年 度

県施設協会総会開かれる

平成十三年度兵庫県知的障害者施設協会総会が四月二十六日（木）「六甲荘」にて開かれた。

総会に先立ち、兵庫県健康福祉局中島英三局長、神戸市保健福祉局障害福祉部藤井良三参事、兵庫県社会福祉協議会辻寛会長よりそれぞれ祝辞をいただき、続いて来賓者の紹介を行った。

次に婦木会長より四十七名の永年勤続職員への感謝状贈呈が行われ、休憩後平成十三年度総会に入った。出席者数一三三名、委任状八十六名、計二一九名となり、総会は成立し、のばら学園三宅園長を議長に選出し、議事に入った。

第一号議案である平成十二年度事業報告及び決算報告と監査報告がなされ、一括承認がなされた。

第二号議案である人事の件については次の通りの新任役員が承認された。

県施設協会新役員

（平成十三年四月一日より平成十四年三月三十一日まで）

児童通園部会長 大山美須子

尼崎市立あこや学園

監事（職員代表） 奥野真知子

三田わくわく村



事務局長 岡本 征 東山荘
 研修担当 小松 正和 大地の家
 広報担当 山崎 玲輔
 ワークホームつつじ

他の役員は留任
 第三号議案である平成十三年度予算案及び事業計画案については原案通り承認された。

第四号議案である規約改正については原案通り承認された。

第五号議案であるその他では、ワークセンターいわやの森村正一園長より、しあわせの村での行方不明となった利用者の施設協会あげての捜索協力に対するお礼の挨拶がなされた。以上平成十三年度総会議事のすべての承認を全員一致でなされ、三原副会長より閉会の挨拶があり、平成十三年度総会は閉会した。

平成12年度 一般会計収支決算書（平成12年4月1日～平成13年3月31日）

兵庫県知的障害者施設協会

支 出				収 入			
科 目	予 算	決 算	備考	科 目	予 算	決 算	備考
31 事業費支出	21,020,000	20,829,763		41 事業収入	19,350,000	20,308,036	
01 研修会等事業費	1,800,000	1,939,356		01 研修会等事業収入	1,800,000	1,832,550	
02 社会啓発事業費	3,350,000	3,221,046		02 社会啓発事業収入	2,700,000	3,173,090	
03 地区活動事業費	2,540,000	2,001,259		03 地区活動事業収入	2,540,000	2,125,719	
04 部会活動事業費	1,110,000	709,805		04 部会活動事業収入	1,110,000	699,000	
05 受託事業費	8,200,000	9,446,727		05 受託事業収入	8,200,000	9,446,727	
06 その他事業費	3,000,000	2,992,251		06 その他事業収入	3,000,000	3,031,000	
07 職員啓発事業費	370,000	129,717		07 職員啓発事業収入	170,000	0	
08 調査研究事業費	650,000	389,800					
32 分担金支出	7,100,000	7,231,900		42 分担金収入	7,100,000	7,231,900	
01 日本愛護会費	5,600,000	5,719,900		01 日本愛護会費収入	5,600,000	5,719,900	
02 県社協会費	1,500,000	1,512,000		02 県社協会費収入	1,500,000	1,512,000	
33 事務費支出	6,600,000	6,334,488		43 事務費収入	5,700,000	5,784,600	
01 賃 金	3,000,000	2,847,313		01 会費収入	5,700,000	5,784,600	
02 旅 費	500,000	449,700					
03 一般物品費	200,000	114,984		44 補助金収入	650,000	797,682	
04 印刷製本費	200,000	188,014		01 補助金収入	200,000	137,682	
05 会 議 費	150,000	87,351		02 助成金収入	450,000	660,000	
06 役 務 費	400,000	422,262					
07 借料損料	180,000	166,356		45 寄付金収入	0	210,000	
08 光熱水費	360,000	360,000		01 寄付金収入	0	210,000	
09 雑 費	1,610,000	1,698,508					
34 繰入金支出	0	0		46 繰入金収入	0	0	
01 特別会計繰入金	0	0		01 特別会計繰入金収入	0	0	
35 雑支出	0	0		47 引当金戻入	2,000,000	650,000	
01 特定引当金	0	0		01 特定引当金戻入	2,000,000	650,000	
				48 雑収入	200,000	538,420	
				01 利息収入	0	11,420	
				02 雑収入	200,000	527,000	
小 計	34,720,000	34,396,151		小 計	35,000,000	35,520,638	
予備費/次期繰越金	280,000	1,124,487		繰越金取崩し			
合 計	35,000,000	35,520,638		合 計	35,000,000	35,520,638	

平成13年度 収支予算書（案）

兵庫県知的障害者施設協会

単位：千円

支 出				収 入			
科 目	予 算	備考		科 目	予 算	備考	
31 事業費支出	19,370			41 事業収入	18,420		
01 研修会等事業費	1,640			01 研修会等事業収入	1,640		
02 社会啓発事業費	3,450			02 社会啓発事業収入	2,900		
03 地区活動事業費	3,040			03 地区活動事業収入	3,040		
04 部会活動事業費	1,040			04 部会活動事業収入	1,040		
05 受託事業費	4,200			05 受託事業収入	4,200		
06 その他事業費	5,600			06 その他事業収入	5,600		
07 職員啓発事業費	200			07 職員啓発事業収入	0		
08 調査研究事業費	200						
32 分担金支出	7,200			42 分担金収入	7,200		
01 日本愛護会費	5,700			01 日本愛護会費収入	5,700		
02 県社協会費	1,500			02 県社協会費収入	1,500		
33 事務費支出	5,750			43 事務費収入	5,800		
01 賃 金	2,550			01 会費収入	5,800		
02 旅 費	500						
03 一般物品費	150			44 補助金収入	400		
04 印刷製本費	200			01 補助金収入	150		
05 会 議 費	100			02 助成金収入	250		
06 役 務 費	450						
07 借料損料	150			45 寄付金収入	200		
08 光熱水費	300			01 寄付金収入	200		
09 雑 費	1,350						
34 繰入金支出	0			46 繰入金収入	0		
01 特別会計繰入金	0			01 特別会計繰入金収入	0		
35 雑支出	0			47 引当金戻入	0		
01 特定引当金	0			01 特定引当金戻入	0		
				48 雑収入	400		
				01 利息収入	10		
				02 雑収入	390		
小 計	32,320			小 計	32,420		
予備費/次期繰越金	109			繰越金取崩し			
合 計	32,420			合 計	32,420		

第10回

ひょうご・ゆうあい

スポーツ大会

平成十三年五月十二日(土)に、高砂市の高砂市総合運動公園陸上競技場をメインに七会場で、知的発達障害を持つ人たちの祭典「第十回ひょうご・ゆうあいスポーツ大会」が開催されました。

この大会は、知的障害者のスポーツの一層の発展を図ると共に、県民の知的障害者に対する理解と認識を深め、知的障害者の自立と社会参加の促進に寄与することを目的としています。主催は兵庫県・兵庫県知的障害者施設協会・兵庫県手をつなぐ育成会・兵庫県障害者スポーツ協会でしたが、共催の高砂市をはじめ、高砂市体育協会の各競技団体の皆様や地元ボランティアの方々との絶大なご協力とご支援をいただいたことに御礼申し上げます。

当日は、兵庫県下各地から健脚自慢、腕自慢の選手が二、二四〇人と職員・保護者・ボランティア等が一、三七二人の総勢三、六六十二人が集い、絶好のスポーツ日和の中、盛大に挙行されました。

開会式で「あかりの家」の天春渉

さんが力強い選手宣誓を行なってくれ、各競技に入りました。

今年の競技種目は、陸上競技をはじめ、ソフトボール、サッカー、フットベースボール、バスケットボール、バレーボールの団体競技と水泳、卓球、ボウリング、フライングディスクの十種目で熱戦が繰り広げられました。

昨年度の姫路大会は、雨で中止になった屋外競技の選手達は、今年こそは思う存分日頃の練習成果を出し合おうと云うことで、それぞれ日が暮れるまで頑張って競技していました。また、陸上競技場では大会のなかでもエントリー数のもっとも多い五十M走では、重度の障害をもった選手達が各人の能力に合った、力一杯のプレーを見せてくれました。

それぞれの競技会場でも選手達が一生涯懸命頑張り、好記録がでる等熱気あふれる大会でした。

本大会は今年十月二十六日から二十九日の三日間、宮城県で行なわれる全国大会(第一回全国障害者スポーツ大会)出場選手の選考会も兼ね

ており、入賞者の中から、兵庫県選手団のメンバーを決定します。

団体競技の結果は以下の通りです。

○バスケットボール 男子

- 一位 共に歩む会(B)
- 二位 共に歩む会(A)
- 三位 赤穂養護学校
- 三位 こやの里養護学校
- バスケットボール 女子
- 一位 共に歩む会
- 二位 こやの里養護学校
- 三位 阪神養護学校
- 三位 トマトクラブ

○ソフトボール

- 一位 高等養護学校
- 二位 養徳会
- 三位 共に歩む会

○バレーボール 男子

- 一位 朋友会
- 二位 高等養護学校
- 三位 大地の家
- バレーボール 女子
- 一位 高等養護学校
- 二位 大地の家

○フットベースボール

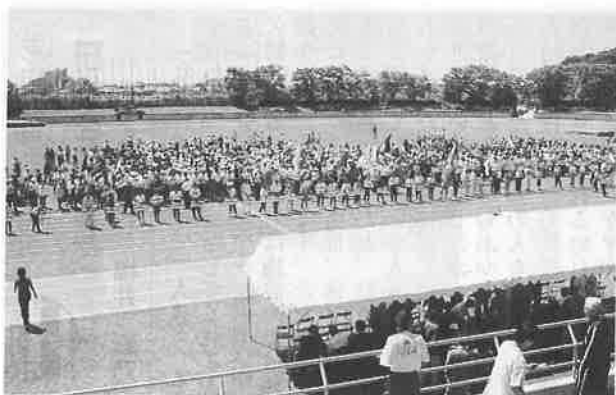
- 一位 養徳会
- 二位 ブラックペッパーズ

○サッカー

- 一位 高等養護学校
- 二位 いなみ野FC
- 三位 共に歩む会

今年から全国大会が知的障害者と身障者が一緒になったスポーツ大会になりました。そのため選手選考基準がこれまでと大きく変更になりました。又、機会があれば報告したいと思っています。尚、県大会については、しばらくは知的障害者だけの大会で予定しています。これからもスポーツ大会の実施にあたっては関係者の皆様のご協力とご支援をいただき運営にあたりたいと思いますのでよろしくお願い致します。

県施設協会 スポーツ担当委員長
ななくさ 新生園 施設長 井上久芳



施設職員一泊研修報告

平成十三年三月七・八日の両日、マイカルボーレン三田研修センターにて一泊研修を実施しました。例年一泊研修は他府県の先進施設の見学等を取り入れ、施設職員としての資質の向上を目的に実施してきましたが、本年度は平成十五年からの施設の大変革の時代を迎えるにあたり、利用者サービスとのあり方について、また施設職員としての資質の向上を目指し二日間じっくり腰を落ち着け、これからの福祉サービスのあり方を学ぶ研修会としました。

今回の一泊研修会は参加希望者が多く、企画当初は八十名程度の参加を予定していましたが、研修内容に関心が深く、最終的には一一九名もの参加となりました。

一日目は「障害者ケアプランの立て方(導入編)」を午前十時より午後五時までの長時間、関西学院大学総合政策学部渡部律子教授に依頼し、知的障害児(者)施設利用者のケアプランの立て方についての基本を徹底的にご教示いただきました。講義内容としては、受講者それぞれの事前提出資料を基に、五名のグループに分かれ、グループ討議、グループ発表を行い、利用者のアセスメントから達成可能なゴールを導きだすためのプランの立て方について互いに議論し、知識を広め障害者ケアプランに必要な知識と技術がマスターできたようです。又、さらに今後の施設職員はソーシャルワーカーとしての援助技術を養うためのソーシャルサポートの機能別六分類の説明とサポートを促進するために必要な技術についての講義も受けることが出来ました。

二日目の最終講義は「治療教育」と題して三田谷学園施設長 榎氏より治療教育の歴史と治療教育の普遍性について、又、重要性について詳しく説明を受けた。又、A・D・A法と基礎構造改革との比較と経緯、施設職員の考え方、姿勢、使命感についての講義があり、二日間の一泊研修を無事終了することが出来ました。

援項目についての説明があり、引き続き各地区のスタッフ部会の活動と兵庫県職員部会のこれまでの状況と今後のあるべき方向について話し合いがもたれました。又今後の支援スタッフに求められるものについても話が及び、利用者と共に歩む部会活動をと訴えがありました。

二日目は「地域支援と施設の今後の動向」と題して、県人所更生施設部会長で希望の郷施設長の蓬生和裕氏より以下の講義を受けました。

一、地域療育支援事業について、訪問療育等支援事業、外来療育等支援事業、地域生活支援事業等の事業内容についての説明があり、現在の地域療育支援事業の配置基準(人口三十万人に一カ所)についての詳細な活動報告。

二、知的障害者のケアマネージメントについて老人福祉のケアマネージメント手法との違い。

三、施設の今後の動向として措置から契約への動きの中で厚生労働省では①市町村への権限委譲チーム②事業者指定チーム③支給決定チーム④支援費基準チーム⑤利用料チームが設置され、今後本格的に支援費支給方式の作業を開始。

等の報告と説明があり、さらに支援費支給方式の問題点として、①所得保障の問題②直接受給・代理受給③通増減方式④障害程度区分の見直し⑤⑥のよう理解の得られぬ解決がされていくのか見守っていく必要がある。厚生労働省の措置から契約への改革に向けての動き、その内容における契約方法、通増減方式、支援費の動向等現在の福祉の流れの情勢報告がありました。

二日目の最終講義は「治療教育」と題して三田谷学園施設長 榎氏より治療教育の歴史と治療教育の普遍性について、又、重要性について詳しく説明を受けた。又、A・D・A法と基礎構造改革との比較と経緯、施設職員の考え方、姿勢、使命感についての講義があり、二日間の一泊研修を無事終了することが出来ました。

参加者の声

研修を通して

ワークホームつじ

福井 紫乃



参加者の声

研修を受講して

東山荘 小柳 幸



「私は将来、大阪で一人暮らしをするねん」と毎日、話してくれるAさん。自分で予定を組み、隔週三回、欠勤をすること以外は施設内では問題なく過ごせています。ただ施設が終わってからの時間帯、休日に盗癖などの行動があったり、ひどい糖尿病を抱えているという大きな問題がありました。必要に応じて、できる限りに動いてきましたが、通所施設の限界にどうしてもぶつかってしまったのでした。一人の人を見ようとした時にしぼられた時間帯では不可能だと痛感させられる毎日の中で、生活全体を見つけたケアが通所施設であつてもやはり必要なんだと気付かされました。研修で学んだケアプランは科学的に分析して日々の中にしっかりととしたゴールを設定していくものでした。それにはニーズが現実の中でどこまで可能なのか、利用者・家族関係・本人と家族の力・資源を理解して見極める力が専門職として必要になると学びました。経験・勉強不足から施設で何ができるのかと考えてばかりいましたが、今回の研修を通して、周りの資源を上手く活用していくことで、通所施設もまた、資源の一つとして役割を果たしているのだと確信することができました。

関西学院大学総合政策学部渡部律子教授より「障害者ケアプランの立て方」についての講義を受講するに当たり、受講する前に事前提出資料として利用者の方の事例を作成しました。

事例項目の中に「ゴール」は何か、という質問に私は地域での生活と記入しました。

しかし講義やグループ討論を通して、そのゴールは本人が本望に希望していることなのか、また実現可能なのか、本人にとって良いことなのか、と考えて行くと、私の一方的な考えでしかないことと認識させられました。利用者にとって実現可能なゴールを設定するためにはもう一度処遇計画を見直し、実現可能なゴールを設定することが必要で、そのために職員が個々の知識、技術をもっと身につけて行かなくてはなりません。また個々の知識、技術だけではダメで、施設全体の協力態勢も必要だと教えるを受けました。

今回の研修で私自身の援助者としての力のなさ、勉強不足を痛感しました。基礎構造改革に伴う平成十五年からの新しい福祉のサービスの導入による利用者への援助を、真に利用者のニーズあった援助計画を立て、利用者一人一人がより良い生活を送ることが出来るようなゴールを設定したいと思っています。

新企画 地区情報コーナー

当協会には、三地区組織があります。ここでは、それぞれの地区の活動ぶりや、ユニークな活動の様子などをお伝えしていきたいと企画しました。

阪丹但地区

〈知的障害者通所授産施設〉

社会福祉法人とよおか福祉会

とよおか作業所

たと焼きハウス

◆生い立ち◆

当作業所の前身である育成会運営の無認可施設「とよおか共同作業所」時代に、入所者の保護者会と職員が法内施設建設のための資金づくりの手段として、市内の各種催し行事に出店し、好評を得ていました。

平成三年五月、現法人によるいわゆる法内施設「とよおか作業所」が開設され、授産品目についての試行錯誤が続いていましたが、平成七年五月から、正式にとよおか作業所直営たこ焼きハウスとして、豊岡保健所長の飲食店営業の許可を得て開店し、現在に至っています。

◆現 状◆

開店後数年が経過しましたが、今では当作業所のアンテナショップとして、地域住民、関係機関、近隣の作業所仲間からも「おいしかった焼きの店」として定着し、作業所のPRに重要な一翼をになっています。今の味付に至るまでには、方々のお店を食べ歩き、お腹をこわしながら企業秘密をさぐったこともありま

す。職員の意気込みを理解くださったプロの無償の出張指導と太鼓判もいただきました。

今では、メニューもたこ焼きのほかお好み焼き、鯛焼き、焼きそばなど数種類あります。また、作業所の農園で収穫した野菜の販売もしております。

平成十二年度決算で当作業所の授産会計収入は約七百三十九万円ですが、その内たこ焼きハウス関係の売り上げは約二百九十五万円で、全体の四十%を占めています。

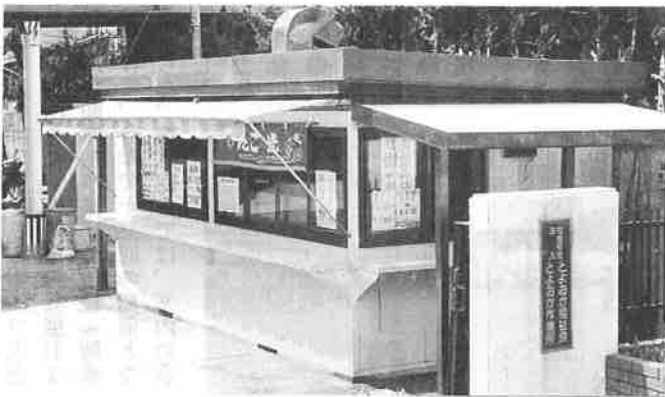
従事者は専属の嘱託職員一名のほか、全職員が臨機に応援。通所者は五名が順番で店内の掃除、調理補助、お客様との応接等に従事し、生活訓練の場に位置づけています。残念ながらお金の計算は誰もできませんが、その分は笑顔でカバーし、その笑顔見たさに立ち寄ってくださいるお客さまもあります。

また、年間数回市内の商店街や病院などのお祭り行事、福祉関係団体のチャリティバザーなどにも出張出店し、売上げ拡大と施設PRにつとめています。

◆課 題◆

ハウスが狭く老朽化してきましたので、増改築を検討中です。また、有効な基礎的生活訓練の場として、通所者のハウス従事者の養成拡大も心がけて行きたいと思っています。

(施設長 峠 宗男)



神戸地区 連帯して共に

神戸市知的障害者施設連盟会長

井 上 勝 彦

十年一昔と人はいいますが、前任者は将に長期にわたって、我、神戸市知的障害者施設連盟の関係施設を束ねて来られた事に敬意を表したいと思います。近年の施設新設には目覚ましいものがあり、今では三十七施設に発展してきました。名称も精神薄弱から知的障害に変わり、社会福祉基礎構造改革の煽りを受け、中央から地方に行政権限が委譲されました。その影響もあり関係団体の組織変更もあり色々な動きをしています。前任者の後を受け、任務を知ると意外と色々な役割に翻弄され、この組織の位置付け、役割の重要さに思い知らされています。誰かが行政や社協他関係団体、さらには全国的にも関係を保つ事への橋渡しを努めなければと思う時、前任者のご苦労を思い引き締まる思いです。思っても寄らぬ役員改選に心配を抱えての新体制作りでしたが、これも各施設長様の格別なる理解と協力によるもので各位のお気持ちに感謝しております。

さて昨年と同じような、特に変わり映えない事業計画ですが、五月の総会からこの六月八日・九日には鳥根県の「いわみ福祉会」の現状を施設長研修の一環として実施することが出来ました。地域生活支援活動

の生の活動を見て、各施設長皆様もきつと刺激されたことでしょう。又、六月二十一日・二十二日には大都市福祉施設協議会が神戸市担当で開催されました。その準備に当たっても各施設長皆様の協力なしには何も出来ない状態でした。実際のこうした動きこそが組織として基本的に大切なことだと痛切に感じました。

兵庫県知的障害者施設協会は昭和三十七年に発足し、神戸市知的障害者施設連盟は昭和四十三年に発足、以来県知協と連帯しながら独自の活動を起こし今なおその独自性は変わらないうで存続して来しました。しかし最近の動きの中に大都市へ行政事務権限が委譲されるに伴い、神戸市内の他の福祉団体が県の団体より独立しているなかで前任者もいろいろ考えられた上、県協会での位置付けについての見直し、独立への動きも発言され、全国組織の事務局にも働きかけられていましたが、他都市にも色々な事情があり容易に足並みが揃わないのが現状のようで、そのような事情もあり思うに進展していません。私の思いは、市知連の強い連帯と独自性を忘れずに、県組織との参画連携を図り大都市の施設連盟として従来のまま活発な活動を維持し、今後の方向付けについては県知協と協議をしながら進むことが肝要と考えています。変化の激しい状況の中で益々連携が必要になってくると思います。皆々様の一層のお力添えをよろしく願います。

播 淡 地 区

第13回 ばんたん

親善運動会

去る六月八日(金)午前十時三十分から午後三時まで姫路市立陸上競技場において毎年恒例の「ばんたん親善運動会」が盛大に行われました。播淡地区の三十六施設および二つの小規模作業所から利用者九五一名と職員等三八四名の計一三三五名の参加。また、日本3B体操協会から十三名のボランティア。さらに、来賓、保護者および一般見学者の方も多数参加されました。

恒例になりましたこの運動会は、

開会式

- 1 開会宣言
- 2 来賓挨拶
- 3 選手宣誓
- 4 開会宣言
- 5 施設紹介



屋 休 み

午後の部

- 4 ミニマラソン...各組
- 5 はこ餅ね...各組
- 6 大玉ころがし...各組
- 7 オセロゲーム...各組
- 8 ジンゴスカーン...全員

演 技

午前の部

- 1 3B体操...全員
- 2 玉入れ...各組
- 3 デカパン競争...各組



開会式

- 1 利用者挨拶
- 2 主催者挨拶

協力 姫路福祉専門学校
日本3B体操協会

重度の方も参加できるスポーツ大会として企画され、姫路市の共催および神戸新聞厚生事業団の後援・助成を受けて、今年で十三回の開催となりました。第八回までは、室内の会場でした



今年の内容を一部紹介。

○開会式：「あすかの家」(設立二年目)の多くの利用者の方で、元気な選手宣誓がありました。

○3B体操：毎年日本3B体操協会の方が新しい踊りを考え、前もって職員が覚えて各施設で練習を。今年の曲は「明日があるさ」でした。

○ミニマラソン：四百mと二百mを走る唯一の個人競技。一着から三着までの方に、今年は神戸新聞厚生事業団の橋姫路支部長様から表彰状を手渡して頂きました。

○はこ餅ね：棒を横に持って四人二組で運ぶリレー競技。今年の新しい競技で良かったとの声が多い。

○大玉ころがし：今年からトラックを転がす競技に。四色の大玉が抜きつ抜かれつのデッドヒートでした。

○閉会式：利用者を代表して、「太陽の郷」(設立二年目)の方の大きな声での挨拶がありました。運動会終了後に反省会。後日、参加施設からアンケート。来年はさらに利用者の方が喜んでもらえる運動会を目指しています。

(木の根学園 ひまわり工房

林 正幸)



《新施設紹介》

今回から、新施設紹介は広報担当が現地向向き、現地レポートで新施設の様子をお伝えしていきます。

(取材 広報担当 山崎玲輔)

社会福祉法人 福成会

あいあい

(知的障害者通所更生施設)

阪神電車「杭瀬」駅から徒歩で数分の街の真中に、「あいあい」があります。保護者、職員等から募集して付いた名前が「あいあい」。母音で呼びやすく、愛・出会い・私、と皆さん方の思いが一杯詰まった施設名です。「杭瀬福成園」とは軒続きの元市立授産所をうまく改装した楽しい空間で、同法人の市内7つ目(内三方所は分場)の施設です。

藤園洗二園長

の案内で施設内を見学させてもらいましたが、メインの二階は広い空間を間仕切りでホール、食堂・各作業室と有効に利用でき、空調が効いたそれぞれの部屋は快適な空間へと改装の苦労が想像されました。作業は、フックボルト組立て



作業を見学させてもらいました。二部屋の作業室でそれぞれの工夫を生かし、利用者と職員が和気あいあいと作業に取り組んでいます。そこには今春卒業した利用者が多く、若者の熱気を感じさせる十分な雰囲気も溢れていました。もうひとつの作業室には、新しいクッキー製造の機械が入り、次回の訪問時にはおいしい出来立てのクッキーをご馳走してもらえるのかなど、思ってしまうました。

日課は、十時から三時半までの週五日間の日課。毎週一回のグループレクリエーション活動と月一回のクラブ活動。クラブ活動には茶道部もあるとのこと。

尼崎市内の同法人施設は、市内に点在し、毎年養護学校高等部卒業生を地区割りして受け入れて出ていくとのこと。送迎の要望等は出てきていないが、時間延長の声は挙がっている。しかし、施設はスタートしたばかり、これからの課題です、と藤園園長。

Tシャツに「あいあい」のロゴを入れたインです、と試作品を利用者と共に着て見せてくれた職員さん達の姿に、「利用者三十人というこじんまりとした、機能性が生かし易い特性を活かし、家庭的な肌と肌とが触れ合う、手造りが見える運営を目指します」と、とパンフレットにあった言葉そのものだ、と思いつながら施設を後にしました。

《あいあい》について

所在地 尼崎市杭瀬本町3-5-17
電話 (06)6481-9815
設立 平成十三年四月一日開設
定員 三十名

施設長 藤園洗二
職員数 八名 (パート一名)

社会福祉法人 夢と虹の会

虹

(知的障害者通所更生施設)

訪問の事前連絡で地図をお願いしたところ、HPをご覧下さい、とのこと。ペンションかと見間違える木造建物が映し出されてきました。そのプリントを手に、タクシーの運転手に見せながら、昼過ぎに到着。広い園庭の奥に木造二階建ての建物。幼稚園と間違えられと言う二階からの避難滑り台。インパクトのある建物でした。

「会社組織にしていなく、夢工房の構想を熱く語られる柳生豊一理事長。この子達に親はもとと密度の濃いかかわりをしなければならぬ。この施設は娘の為に作った親の感覚が凝縮された施設である。この子達は守られながら、もつと収益の上る作業を意図し、地元資源を有効に活用しながら自立を図っていく施設にしたい。

親として、理事長として、この施設に託す確固たる信念を、利用者に炒れてもらったコーヒを頂きながら聴かせて頂きました。

の施設に託す確固たる信念を、利用者に炒れてもらったコーヒを頂きながら聴かせて頂きました。

定員三十人の施設に現在は二十名全体がゆつたりとし、ぬくもりを感じさせる木の施設を案内してもらいながら、さまざまな工夫やアイデアが生かされて、各部屋の案内掲示のイラストが統一され、採光や照明にも工夫がされていました。案内していただいた柳生事務局長は、「スウェーデンの施設で実習中いろいろなアイデアやヒントをもらっているんですよ。まさにこのための施設。」

作業は、畑作業・花壇作業・竹炭作業とボン菓子作業があり、竹炭作業で作った竹炭脱臭剤は、手作りの布製の袋に入れ販売しています。施設の隣に大きな畑があり、地域のボランティアさんの協力を得て野菜作りに励み、花壇は地域の街路樹等の花壇作りまでも頑張っているとのことでした。

HPの伝言板に、父親が我が子の様子や園の動きなどの感想を仕事場から送ってくることもあるそうです。ここにも理事長が言われる密度の濃い親のかかわりが実践されていると感激されました。帰路、「つつじの皆さんで」と、紙袋一杯のトウモロコシを頂き、翌日味わいました。

《虹》について

所在地 揖保郡太子町佐用岡五〇二
電話 (0792)75-3030
設立 平成十二年四月一日
定員 三十名
理事長 柳生 豊一
職員数 七名
<http://www.h3.dion.ne.jp/~y-niji>



兵庫県社会福祉事業団 出石精和園

第2成人寮

(知的障害者人所更生施設)

バス停から一本道をひたすら歩くこと十分。屋根に無数の電線、新式の太陽光利用システムか。出迎えるの葉田豊秋寮長に聞くと雷対策(避雷針?)。出石のこの辺りは雷が多いとか。

第2成人寮が開設されて一年、施設の生活も落ち着き出した頃、葉田寮長に寮内を案内してもらいました。ゆったりとした一人部屋、二人部屋は緊急時の対応も兼ねて基準よりも広く作ってあるとのこと。阪神淡路大震災で京都・大阪への「疎開」を経験した施設職員としては安心材料です。案内の途中、「私、こう言う者です」と差し出された名刺には、施設の住所と部屋番号、「挨拶がおくれまして」と、名刺交換会。デイルームには今日の勤務職員の名前と写真や献立表がボードに貼られ、生活の匂いがしてきます。高齢者の比率が高いこの施設では、入居者(こう呼ぶ)に生活を楽しんでもらうことを第一と考え、余暇指導に時間を多くかけ、外出の機会も多く、将来特別養護老人ホームへスムーズに入居できる



ような配慮も心がけておられるとのことでした。又、生活の中にリハビリの要素を積極的に取入れておられました。敷地内にある裏山の山登りも日課になっているとの事。掲示板には写真クラブの方達の作品が一杯貼ってあり、「デジカメでプリントアウトした作品です」との説明。この方が経済的で自由に撮れるクラブの事で、食堂にはいろいろなクラブの紹介と案内が貼ってありました。ゆったりとしたスペースが確保され、時間の流れが緩やかなそんな気にさせる敷地内でした。

一方、利用者関係の書類管理にはPCを導入し、LANで結んで活用し、葉田寮長の力作である個人援助計画のソフトも見せてもらいました。将来の介護保険を見据えた動きの速さに高齢者の多い施設の課題が見えてきました。又、但馬圏域では唯一の入所施設、施設サービスへのニーズの高さや課題等山積していると、葉田寮長の言葉の重さを感じてきました。

出石精和園(第2成人寮)について
所在地 出石郡出石町宮内一〇三
電話 (0796)5213438
設立 平成十二年六月一日
定員 四十名
施設長 達富 家嗣
職員数 十九名

機関紙名称変更の公募をしましたが、まだ充分議論が尽くされていません。今号は従来の名称で発行し、次号から新名称にします。引き続き名称の公募をおこないますので、事務局まで応募してください。

△日誌抄▽

平成13年度	平成12年度第7回役員会	4月10日	(三田)
18日	平成13年度阪丹但地区総会	18日	(三田)
20日	第10回ひょうごうあいスポーツ大会説明会	20日	(三田)
23日	近畿地区施設協会第一回役員会(アヴィーナ大阪)	23日	(高砂)
26日	県施設協会総会(六甲荘)	26日	(高砂)
5月9日	全国施設長会(東京)	9日	(高砂)
12日	第10回ひょうごうあいスポーツ大会	12日	(高砂)
14日	臨時役員会	14日	(加西)
16日	施設利用者互助会評議委員会	16日	(神戸)
24日	ひょうごうあいスポーツ大会御礼挨拶(高砂)	24日	(高砂)
6月8日	播淡地区運動会(姫路市)	8日	(高砂)
11日	第一回全国障害者スポーツ大会選手選考会(神戸)	11日	(神戸)
17日	阪丹但地区施設職員研修会	17日	(三田)
20日	県施設協会第一回役員会	20日	(三田)
7月9日	希望の船(大分県)	9日	(三田)
26日	播淡地区施設職員研修会	26日	(三田)
20日	施設保護者会協議会との三役懇談会	20日	(神戸)
16日	全国入所更生部会研修会	16日	(東京)
17日	第2回近畿地区施設協会役員会	17日	(和歌山)
24日	施設新任職員研修会	24日	(明石)
27日	インド西部大地震兵庫県義援金募集委員会(神戸)	27日	(神戸)
30日	福祉4団体合同役員会	30日	(神戸)
8月9日	県施設協会第2回役員会	9日	(三田)
10日	通所更生部会全国大会	10日	(三田)

△活動予定▽

22日	近畿地区施設協会第3回役員会	22日	(大阪)
29日	播淡地区一泊研修会	29日	(姫路)
31日	第6回全国クルーブホーム研修大会(京都)	31日	(京都)
9月7日	県施設協会第3回役員会	7日	(三田)
19日	愛護の集い(勤労福祉会館)	19日	(三田)
25日	第39回全国知的障害者関係施設職員研究大会	25日	(岐阜高山)
29日	神戸地区・育成会合同レクリエーション	29日	(東京)
10月中旬	全国会長会議	中旬	(東京)
26日	兵庫県知的障害者福祉大会	26日	(丹波の森公苑)
26日	第1回全国障害者スポーツ大会	26日	(宮城)
11月18日	全国事務局長会議	18日	(東京)
19日	第4回全国知的障害者・施設運営研究協議会	19日	(北海道)
26日	生活支援部会研究協議会	26日	(横浜)
29日	第24回近畿地区知的障害関係施設長会議	29日	(大阪)
平成14年1月18日	福祉4団体賀詞交換会	18日	(榎会館)
28日	在宅援助セミナー	28日	(名古屋)
2月7日	第12回授産運営研究協議会	7日	(名古屋)
8日	第38回近畿地区知的障害関係施設職員研修会	8日	(八甲アイランド)
9日	ひょうごうあい音楽祭	9日	(予定)
3月15日	授産施設職員研修会	15日	(予定)
中旬	近畿地区施設長役員会	中旬	(和歌山)